

精神保健福祉の理論と相談援助の展開

問題 36 精神保健医療福祉の事項と人物に関する次の組合せのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 わが魂にあうまで ————— 呉秀三
- 2 精神病患者慈善救済会 ————— ビアーズ(Beers, C.)
- 3 デイケア ————— リバーマン(Liberman, R.)
- 4 社会生活技能訓練(SST) ——— ビエラ(Bierer, J.)
- 5 当事者運動 ————— オヘイガン(O'Hagan, M.)

問題 37 精神障害者支援の理念や方法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 リカバリーとは、回復のために利用していた様々な支援を必要としなくなり、自立することである。
- 2 エンパワメントとは、社会的に不利な状況に置かれた人が、自らの力を高め、行動できるようになることである。
- 3 ストレングスモデルとは、疾患やそれに起因する弱さを、個人に応じたプログラムにより強化していくことである。
- 4 インフォームドコンセントとは、医師が推奨する治療や検査について患者を説得することである。
- 5 ソーシャルインクルージョンとは、疾患や障害の状態に配慮し、求められる義務や行為に対する猶予制度を確立することである。

問題 38 精神科リハビリテーションの基本原則に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 疾患ごとにアプローチを統一する。
- 2 本人の依存を防いで自立度を高める。
- 3 全過程を一貫した計画で実施する。
- 4 本人と専門職の二者関係で展開する。
- 5 疾病管理と再発予防の視点を持つ。

問題 39 次の記述のうち、就職を希望するクライアントのリハビリテーション計画における資源調整として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 自宅から通える就労移行支援事業所を利用できるように援助する。
- 2 就職の可能性について一緒に主治医の意見を聞きに行く。
- 3 近所の地域活動支援センターに就労準備プログラムの開設を交渉する。
- 4 新たなパソコン技能が身につくように分かりやすく教える。
- 5 昼間に一緒に外出して規則正しい生活リズムに戻す。

問題 40 社会生活技能訓練(SST)の基本訓練モデルに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ガイドブックに従い、基本的社会生活技能を系統的に練習する。
- 2 訓練場面は、メンバー相互の話合いでセッションごとに決定される。
- 3 リーダーが手本を示し、メンバーが順に演じて相互に比較する。
- 4 参加している他のメンバーからの問題点の指摘が重視される。
- 5 練習したことを実生活の中で実践するチャレンジ課題(宿題)が出される。

問題 41 精神科医療機関の精神保健福祉士が行うインテークにおける次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 個別支援計画を作成する。
- 2 具体的な援助を実施する。
- 3 現状を総合的に理解し評価する。
- 4 患者と信頼関係を形成する。
- 5 面接票の事項に沿って質問する。

問題 42 エバリュエーションに関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 課題分析で明らかになったニーズに対して様々な社会資源を検討し統合する。
- 2 相談援助過程におけるクライアントのニーズ充足度や効果を客観的に精査する。
- 3 支援計画の進捗状況と新しいニーズの追加及び目標達成度を確認する。
- 4 個々のニーズの充足に向けて支援者や支援機関が各々の役割を遂行する。
- 5 見守りを続け、必要に応じて介入できるよう準備する。

問題 43 統合失調症のHさん(29歳, 男性)は, ガソリンスタンドのパート収入と生活保護費を併せて, アパートで単身生活をしている。また, 精神科診療所に外来通院している。同診療所のJ精神保健福祉士が訪問したときに最近の様子を尋ねたら, 「仕事が忙しくて大変で, とても疲れる。パート先の同僚が, 生活が苦しいそうで, お金が何とかならないかと言っている」と話した。J精神保健福祉士は「仕事が大変で体がきつくて疲れてしまうのもあるけど, もしかしたらパート先の同僚からお金を貸してほしいと言われて, どうしたらよいか悩んでいるのではないですか」と尋ねた。

次のうち, J精神保健福祉士が用いた面接技法として, 正しいものを1つ選びなさい。

- 1 明確化(clarification)
- 2 要約(summarization)
- 3 直面化(confrontation)
- 4 支持(approval)
- 5 励まし(encouraging)

問題 44 統合失調症の家族心理教育に関する次の記述のうち, 正しいものを2つ選びなさい。

- 1 情報提供と疾病教育の2つで構成される。
- 2 家族の社会的孤立状態の解消を図る。
- 3 家族の感情表出が, 回復や再発に影響を与えることを説明する。
- 4 システム理論に基づく家族病理について教える。
- 5 家族間に共通する問題を探すことから始める。

問題 45 次の記述のうち、「障害者総合支援法」に基づく、地域における相談支援として、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 退院後のアパート探しのため、地域相談支援を利用する。
- 2 成年後見制度に係る費用補助を得るため、基幹相談支援センターを利用する。
- 3 地域活動支援センターに通所するため、計画相談支援を利用する。
- 4 就労移行支援事業所に通所するため、障害者就業・生活支援センターを利用する。
- 5 預金通帳を管理してもらうため、市町村地域生活支援事業の相談支援を利用する。

(注) 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

問題 46 統合失調症の息子(30歳)のいるKさんは、1年前から保健所のL精神保健福祉相談員の紹介で地域の家族会に参加するようになった。ある日、KさんはL精神保健福祉相談員に家族会での印象的な出来事を以下のように語った。「私は息子のできなくなったことばかりが気になって、いつもイライラして厳しく当たっていました。主治医から病気の症状によるものだと聞いても受け入れられませんでした。ところがあるご家族が『病気になって一番つらいのは本人です。親にできることはそのつらさに寄り添い、本人をそのまま認めてあげること』と話していたのを聞いて、息子の苦労や大変さが感じ取れるようになってきたのです。私も親として、病気を抱えながら頑張っている息子の一番の理解者になってあげたいと思いました」。

次のうち、セルフヘルプグループの特性の中で、Kさんの語りが示すものとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ヘルパーセラピー原則
- 2 わかちあい
- 3 体験的知識の活用
- 4 レジリエンス(resilience)
- 5 役割モデルの獲得

問題 47 次の記述のうち、精神保健福祉士が障害者ケアマネジメントを終結することになる状況として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 利用者がケア計画の変更を求める。
- 2 新たな在宅支援ニーズが発生する。
- 3 ケアマネジメント従事者が退職する。
- 4 利用者がサービスの利用を調整できるようになる。
- 5 利用するサービスがインフォーマルなもので構成される。

問題 48 次の記述のうち、精神保健福祉士が行う支援として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 退院後生活環境相談員として、医療保護入院患者の地域移行を進める。
- 2 サービス管理責任者として、精神障害者のサービス等利用計画を作成する。
- 3 精神保健福祉相談員として、在宅精神障害者の生活介護を行う。
- 4 相談支援専門員として、精神障害者からの相談に応じて、服薬を調整する。
- 5 介護支援専門員として、個別支援計画を策定する。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 49 から問題 51 までについて答えなさい。

[事 例]

Mさん(67歳, 男性)は大学を卒業し会社員として勤めていたが, 35歳で統合失調症を発症したため退職し, 障害厚生年金を受給した。56歳からU精神科病院に6回目の入院をしていた。両親は既に他界しており, きょうだいがいないMさんには身寄りがない。Mさんは時に幻聴と被害妄想が再燃して頭を抱えて臥床することもあるが, 同室の患者と談笑する一面もあった。長期間の入院で生活能力や身体的機能の低下がみられ, 身の回りの整理や着替えなどに一部介助が必要な状態である。U精神科病院のA精神保健福祉士は, 退院に消極的なMさんを何とか退院に導きたいと, 2年前からMさんに外出グループのリーダーをお願いしていた。また, 長期入院経験者を病院に招いて, 退院後に利用できるサービスや, 自分なりの生活が送れる楽しさを語ってもらうなど, 退院後のイメージが持てるように, 様々な働きかけを続けた。その結果, 少しずつMさんの気持ちが退院に向くようになってきた。(問題 49)

A精神保健福祉士は院内のカンファレンスでMさんの変化を伝え, 退院に向けたケア会議を開いた。会議にはMさんも含め, 地域包括支援センターの社会福祉士と, 指定一般相談支援事業所のB相談支援専門員に参加してもらった。会議の結果, Mさんの退院に向けて取り組むことを全員で共有した。社会福祉士からは, Mさんの退院後の支援については介護保険も利用できるため, 要介護認定申請と介護保険サービスに関する説明があった。(問題 50)

B相談支援専門員がMさんに地域移行・地域定着支援に関して丁寧に説明したところ, Mさんは時々夜になると不安が大きくなることや, 年をとってきたため家事や金銭管理に自信がないと語った。その後Mさんは要介護1の認定を受けるとともに, 地域移行・地域定着支援を利用して退院した。(問題 51)

現在Mさんは, 地域で展開している「ふれあい・いきいきサロン」に時々顔を出すなど, 自分なりの生活を楽しんでいる。

問題 49 次のうち、A精神保健福祉士が行ったアプローチとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ナラティブアプローチ
- 2 エンパワメントアプローチ
- 3 心理社会的アプローチ
- 4 問題解決アプローチ
- 5 課題中心アプローチ

問題 50 次のうち、このケア会議で説明された、Mさんが利用できるサービスとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 認知症対応型共同生活介護の利用
- 2 短期入所生活介護の利用
- 3 養護老人ホームへの入所
- 4 施設入所支援の利用
- 5 訪問介護の利用

問題 51 退院時にB相談支援専門員が立てた地域移行支援計画に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 就労継続支援A型事業所に通う。
- 2 成年後見制度を利用する。
- 3 夜間の電話連絡が取れる体制を作る。
- 4 通院時に行動援護を使う。
- 5 訪問入浴介護を利用する。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題2)

次の事例を読んで、問題52から問題54までについて答えなさい。

[事例]

Cさん(45歳、男性)は、妻と2人の子ども(高校生と中学生)の4人家族で、これまで順調に働いてきた。1年前に営業部の課長となったCさんは、責任感を持って仕事に取り組んでいたが、部下との関係がうまくいかずに悩んでいた。その後、次第に疲れやすくなり食欲不振と不眠がみられ、表情は乏しく元気がなくなっていった。ある日、仕事でのミスが続き取引先から叱責され、それを契機に朝起きられず出勤できない日が続いた。心配した上司に勧められてV精神科病院を受診したところ、うつ病と診断され、しばらく会社を休むことになった。Cさんと妻は、今後の生活についてV精神科病院のD精神保健福祉士に「学費や住宅ローンもあるし、お父さんがずっと家にいて子どもたちにはどうでしょうか」「休みが続くと会社に戻れなくなるのではないだろうか」と不安そうに相談した。(問題52)

1か月が経過し、復職を焦り始めたCさんは「早く職場に戻りたい」と上司に訴え、元の部署に復帰したが、うつ状態が悪化しては休むことが繰り返された。そのようなCさんに、主治医はデイケアの復職支援プログラムを利用して確実な復職と再発予防に取り組む必要性を説いた。Cさんは休職の手続きを取ってデイケア通所を開始し、引き続きD精神保健福祉士が担当になった。Cさんは休まずデイケアに参加し、真面目にプログラムに取り組んだ。次第に体力も回復し他のメンバーと笑顔で会話するようになったが、自分のやり方にこだわりが強く、それを正しいと思い込んで周囲に強い様子が目立った。D精神保健福祉士は、デイケアのカンファレンスでCさんの現状を伝え、今後の対応を協議した。(問題53)

デイケアを開始して5か月が経過した頃、D精神保健福祉士はCさんと面談し、今後の意向を確認した。Cさんは「デイケアで自分の課題が見えてその対処法も学んできた。そろそろ復職に向けて具体的に進めたい」「休んでいた期間が長かったので通勤が不安だし、前と同じように働けるのかも心配」と答えた。D精神保健福祉士はCさんの意向を踏まえて、今後必要な働きかけを検討した。(問題54)

問題 52 次の記述のうち、この時点のD精神保健福祉士の対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 経済的な不安を軽減するため、障害年金の申請手続を説明する。
- 2 職業の安定を図るため、可能な仕事への転職を検討してもらう。
- 3 子どもの精神的負担を考え、Cさんに平日の図書館通いを勧める。
- 4 療養に専念するため、会社の就業規則を確認するよう伝える。
- 5 復職に備えるため、自宅では積極的に家事を行うよう促す。

問題 53 次の記述のうち、Cさんの課題を改善するための対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 毎日の出来事と所感を書き出して自分の思考や行動を振り返る。
- 2 オフィスワークプログラムで個別作業の時間を増やす。
- 3 自律訓練法を活用したプログラムを導入する。
- 4 元気回復行動プラン(WRAP)への参加を促す。
- 5 皆勤賞としてメンバーミーティングで表彰する。

問題 54 次の記述のうち、D精神保健福祉士の今後の働きかけとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 復職のタイミングはCさん自身が決めるよう伝える。
- 2 他の部署への配置転換を上司に依頼する。
- 3 次のステップとして就労移行支援事業の利用を勧める。
- 4 Cさんの病状を社員に周知させるよう会社に助言する。
- 5 職場の前まで行ってからデイケアに来ることを提案する。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題3)

次の事例を読んで、問題55から問題57までについて答えなさい。

[事例]

Eさん(15歳、女性)は、中学2年生の夏より不登校傾向が強まっていた。3年生になり、周囲の同級生の間で進学先の話が増え、三者面談が始まる中で、将来への不安が増大して悲観的に考えるようになった。そして、2学期から全く登校しなくなり、部屋にひきこもるようになった。そこで、W中学校では市の教育委員会に配置されたスクールソーシャルワーカーのF精神保健福祉士の派遣を依頼した。

F精神保健福祉士はW中学校を訪れ、担任や校長からEさんに関する情報収集を行った。その後、F精神保健福祉士による家庭訪問が始まった。初回の家庭訪問を担当と一緒にいったが、本人は自室に鍵をかけ出てこなかった。母親との面談から、親子間の会話も少なく、オンラインゲームに熱中し、ゲームへの課金による多額の請求がきていることなどが分かった。また、父親がうつ病で入院していることも分かった。

(問題55)

F精神保健福祉士による定期的な訪問や声かけの結果、Eさんと直接会うことができ、日常的な会話もできるようになってきた。Eさんからは、「みんながどう思っているのかな」「学校に行っても何て話しかけたらいいか…」「進学したいけど、どうかな」「アルバイトとかで働けるのかな」などの希望や不安が示された。そこで、F精神保健福祉士は間近に迫る進路決定や卒業などを念頭に入れ、支援を継続した。Eさんは冬休み明けには少しずつ登校もできるようになり、卒業を迎えた。その後Eさんは定時制高校に進学し、まだ時折欠席もあるが、日中は関係機関を利用しながら生活をしている。(問題56)

Eさんに対するF精神保健福祉士の一連の支援が終結し、年度明けにW中学校の職員室において教職員に今回のまとめを報告する機会があった。そこで複数の教職員からメンタルヘルス課題のある生徒への対応や支援で悩みを抱えているとの相談があり、ある提案を行った。(問題57)

問題 55 次の記述のうち、この時点でのF精神保健福祉士の対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 インターネットの接続を遮断するよう提案する。
- 2 父親の病状について主治医から説明を受ける。
- 3 母親へクラスの様子等の情報を提供するよう担任に促す。
- 4 Eさんの部屋の鍵を開けてもらうよう依頼する。
- 5 親子関係の再構築のための助言をする。

問題 56 次のうち、Eさんが利用している関係機関として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 地域若者サポートステーション
- 2 訪問看護ステーション
- 3 地域活動支援センター
- 4 ひきこもり地域支援センター
- 5 地域障害者職業センター

問題 57 次のうち、この時点でF精神保健福祉士が提案した内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 特別支援学校の紹介
- 2 児童相談所への迅速な通告
- 3 教職員間における情報の共有
- 4 Eさんの体験発表会の開催
- 5 障害福祉サービスの説明会の実施

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題 58 から問題 60 までについて答えなさい。

[事例]

Gさん(30歳, 女性)は18歳で統合失調症を発症し、入院を経験しながらも、25歳で農業大学を卒業して、父親が代表を務める農業法人でいちご加工部門を担当している。受診は継続し、時には周りのことや対人関係が気になることもあるが、自分で対処できるようになってきた。

受診先のH精神保健福祉士はGさんの初診時から何かと相談に乗っていた。3年前に「仕事そのものには自信がついてきたけれど、商談や仕事関係の会合はやはり疲れる。どこか引け目を感じ、病気のせいかなとか思ってしまう」と相談された際は、交流を目的に発足したばかりの当事者活動グループを紹介した。(問題 58)

Gさんは当事者活動の中で、精神保健ボランティア講座の企画・実施に加わり、自分の体験談を話す機会を得てから、次第にグループの中心メンバーになっていった。「メンバーが増えない。活動への参加者が減ってきて、いつも同じメンバーしか参加しない」などグループ活動の悩みを相談されたH精神保健福祉士は、社会福祉専門職団体の連絡会でも当事者活動の支援が課題となっていたこともあり、Gさんと話を重ねた。その中から、様々な当事者活動の交流会を開催したらどうかというアイデアが生まれ、昨年春にはいくつかの当事者活動グループに社会福祉専門職団体が協力して当事者活動交流会を開催した。(問題 59)

交流会の実行委員を務めたGさんは、そこで難病家族会のメンバーJさんと知り合った。Jさんは農学部出身ということもあって話が合い、交際が始まり、最近婚約した。Jさんの横で「また調子を崩すんじゃないかと不安はある。自分を大切に、これからもチャレンジしていきたい。もうひとりじゃないし」とH精神保健福祉士に語るGさん。その場でGさんとJさんから、障害者が中心となって障害者だけでなく地域にも貢献できる新しい活動を始めたいという夢がH精神保健福祉士に語られた。そこでH精神保健福祉士は、各地の情報や経験を集めながら何が自分たちの暮らしや地域に役立つのか、ゆっくりと一緒に考えていこうと提案し、二人も頷いた。(問題 60)

問題 58 次の記述のうち、この時点でH精神保健福祉士が行ったGさんへの支援の目的として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 コミュニケーションスキルを身につける。
- 2 対人緊張への対処法を学ぶ。
- 3 別の働きやすい職場を創り出す。
- 4 自信を取り戻す機会を提供する。
- 5 グループをまとめる力を獲得する。

問題 59 次のうち、この時点でH精神保健福祉士が行った支援として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 グループワーク
- 2 リフレーミング
- 3 コラボレーション
- 4 ソーシャルサポートネットワーク
- 5 アドボカシー

問題 60 次のうち、GさんJさんたちとH精神保健福祉士の関係として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 リーダーシップ
- 2 フォロワーシップ
- 3 メンバーシップ
- 4 シチズンシップ
- 5 パートナーシップ